

読 響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

地面に轟く
死者の叫び。
これは運命か、
紅空に舞う
青い鳥か。

ベートーヴェン 交響曲第5番 八短調 作品67 「運命」

苦悩を乗り越え歓喜へ！自らを重ねて描いた不朽の名作。

BEETHOVEN: Symphony No. 5 in C minor, op. 67

ショスタコーヴィチ 交響曲第8番 八短調 作品65

戦争犠牲者へ作曲家が想いを込めた、
《戦争三部作》の中心的傑作。

SHOSTAKOVICH: Symphony No. 8 in C minor, op. 65

時代を生き抜いた二人の芸術家の“魂の叫び”に、
ドレスデン生まれの巨匠が平和への思いを託す。

指揮 **ハルトムート・ヘンヒェン**

Conductor HARTMUT HAENCHEN

Concertmaster TAKUMI KOMORIYA コンサートマスター 小森谷 巧

★ 読売日本交響楽団 第539回 定期演奏会

2014年7月15日(火) 19時開演 **サントリーホール**

S ¥7,200 A ¥6,100 B ¥5,100 C ¥3,600

The 539th SUBSCRIPTION CONCERT / Tue. 15th July 19:00 / Suntory Hall

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 [10時-18時・年中無休]

<http://yomikyo.or.jp/> プレイガイド: チケットぴあ、e+ほか

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)
協力: アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)

ドレスデン生まれの巨匠が託した 平和への願い

東条碩夫(音楽評論家)

ドイツの名指揮者ハルトムート・ヘンヒェンの素晴らしい指揮は、もう日本でもおなじみだ。新国立劇場で指揮したベルクのオペラ〈ヴォツェック〉や、紀尾井シンフォニエッタ東京を指揮したメンデルスゾーンの〈エリア〉などでの快演をご記憶の方も多いことだろう。

その彼が読売日本交響楽団に客演する7月の演奏会の中でも、この日のプログラムは、すこぶる凝ったものだ。2つの〈ハ短調交響曲〉——ベートーヴェンの〈交響曲第5番ハ短調《運命》〉と、ショスタコーヴィチの〈交響曲第8番ハ短調〉を組み合わせた選曲なのである。

しかし、同じ〈ハ短調〉の交響曲でも、この2曲は、全く正反対の展開をする。ベートーヴェンの〈5番〉は、フィナーレでは堂々たるハ長調に転じ、勝利の歓呼となり、圧倒的なエネルギーの昂揚で結ばれる。いっぽう、ショスタコーヴィチの〈8番〉は、激烈な爆発を繰り返しつつも、最後は楽観的にも凱歌にもならず、謎めいた響きのうちに、消え入るように終わっていく。前者は自己の内面での強靱な意志の勝利を謳った作品であり、いっぽう後者は第2次大戦の渦中に生きた人間の苦悩や、スターリン政権との精神的葛藤という、悲劇的な感覚を底流に持つ作品である。だが、それらは、形こそ違え、いずれも「人間の壮絶な意志の闘い」なのだ。

ヘンヒェンは、なぜこういうプログラムを組んだのか？ 聞くところによれば、ドレスデン生まれの彼は、悲惨な戦争のことを常に意識しており、したがってこれは、彼なりの平和への思いを込めたプログラムなのだ、という。

彼が生まれたのは、第2次大戦のさなか、1943年3月21日である。そして、彼が2歳になろうとする1945年の2月13日から15日にかけて、英国空軍による有名な「ドレスデン大空襲」が行なわれたのであった。市内の85%が灰燼と化し、市民の2万5千人以上が犠牲になったといわれる。幼年時代をその焦土の中で送ったとすれば、戦争の悲惨さはヘンヒェンにとっていっそう強い記憶となって残っているだろう。

その彼が、万感の思いを込めて、この〈2つのハ短調交響曲〉を指揮する。いわば「平和への願い」ともいうべき演奏会がこれである。——しかも、ショスタコーヴィチの〈8番〉は、まさにヘンヒェンが生まれたその同年、1943年の夏に作曲された交響曲なのであった。

指揮 **ハルトムート・ヘンヒェン**

Conductor **HARTMUT HAENCHEN**

コンサートとオペラの両方で豊富な経験を持つドイツが誇る巨匠。1943年ドレスデン生まれ。ドレスデン音楽大学を卒業し、71年ウェーバー指揮コンクールで優勝。これまでにベルリン国立歌劇場常任客演指揮者、ベルリン・コーミッシェ・オーパー常任客演指揮者、ベルリン・バッハ(C.P.E.バッハ)管音楽監督、ネーデルラント・フィル首席指揮者、オランダ室内管首席指揮者、ネーデルラント・オペラ音楽監督などのポストを歴任。ベルリン・フィル、ドレスデン国立歌劇場管、アムステルダム・コンセルト・ヘボウ管、フランス国立管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管など世界の一流オーケストラに客演している。オペラでは、英国ロイヤル・オペラ、バリ・オペラ座、モネ歌劇場などでも活躍。数々のCDやDVDを多数リリースしており好評を博している。今回が読響への初登場となる。

©Monika Rittershaus

読売日本交響楽団 第539回 定期演奏会

2014年 **7月15日**(火) 19時開演

サントリーホール

S ¥7,200 / A ¥6,100 / B ¥5,100 / C ¥3,600

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001(オフィス)

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口) 徒歩約5分、銀座線「溜池山王」駅(13番出口) 徒歩約7分

●学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

●団体割引: 読響チケットセンターにて同一公演の1回券を10枚以上まとめてお求めになった方に団体割引をいたします。

※都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。※未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター **0570-00-4390**

※10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

※座席選択してチケットをご購入いただけます。(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)

※郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド: チケットぴあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017、イープラス <http://eplus.jp/>